現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

～　自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計　～

岐阜女子大学

小中連携教育、小中一貫教育が進められてきた背景

- 近年の教育内容の量的・質的充実への対応
- 児童生徒の発達の早期化等に関わる現象
- 中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、「中１ギャップ」への対応

そのためには

小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育

具体的には

・小・中学校の両免許取得の推奨
・教職員の年齢が若い段階で異校種において勤務する経験

子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について
（平成26年12月22日中央教育審議会答申）より抜粋

小中連携教育コーディネータに求められる資質

- 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を持った人材

＋

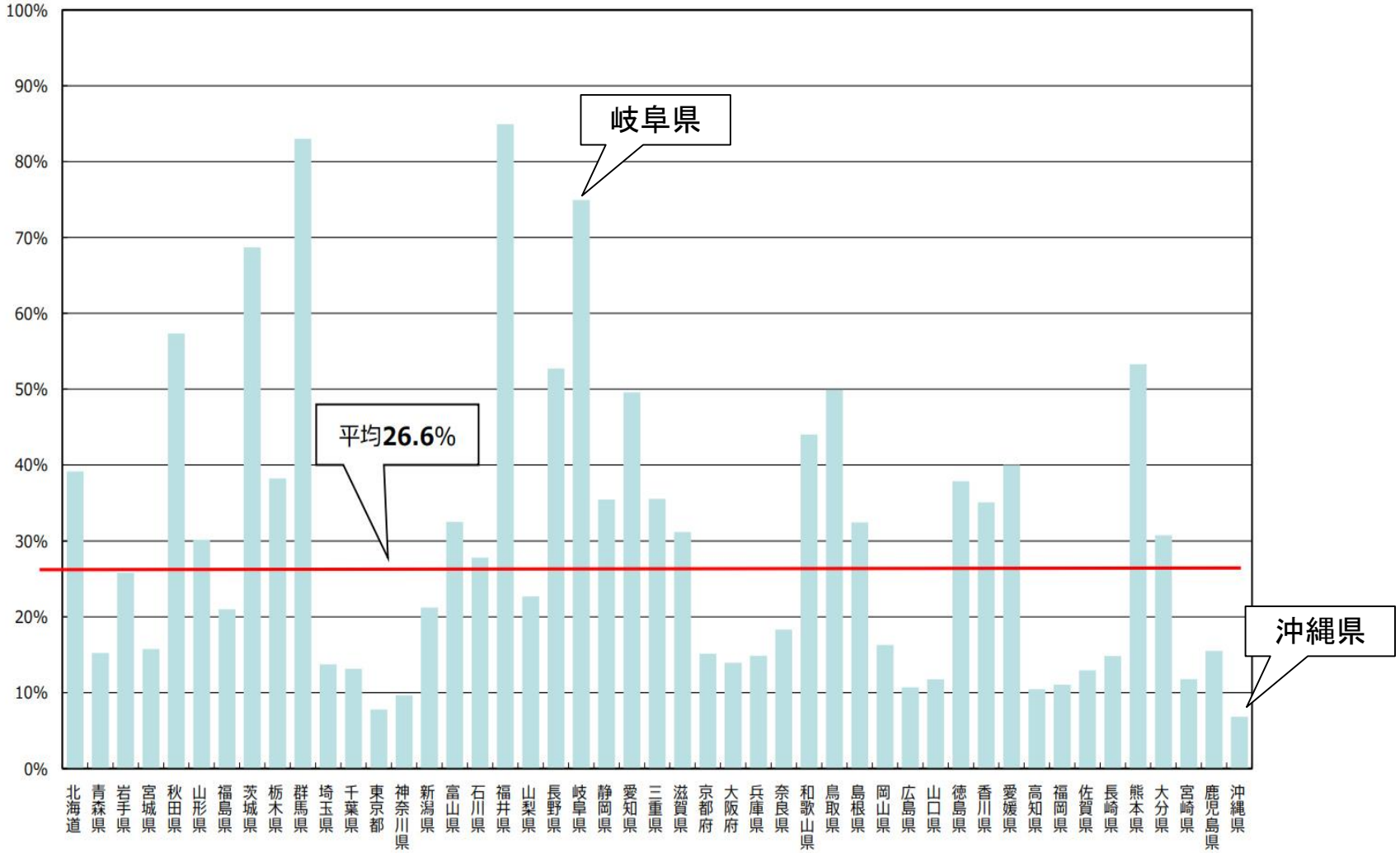
- 教育DX（Digital Transformation）は、教員がオンライン技術を活用して、学びのあり方やカリキュラムを革新し、同時に、業務や組織、プロセス、学校文化の変革など、時代の変化に対応した教育ができる人材

↓

- 子どもたちの学び(授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修館）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び・協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」を実現

『令和 の日本型学校 教育 』 を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について　～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～答申より

中学校で勤務している教員に占める小学校教諭の免許を併有している者の割合



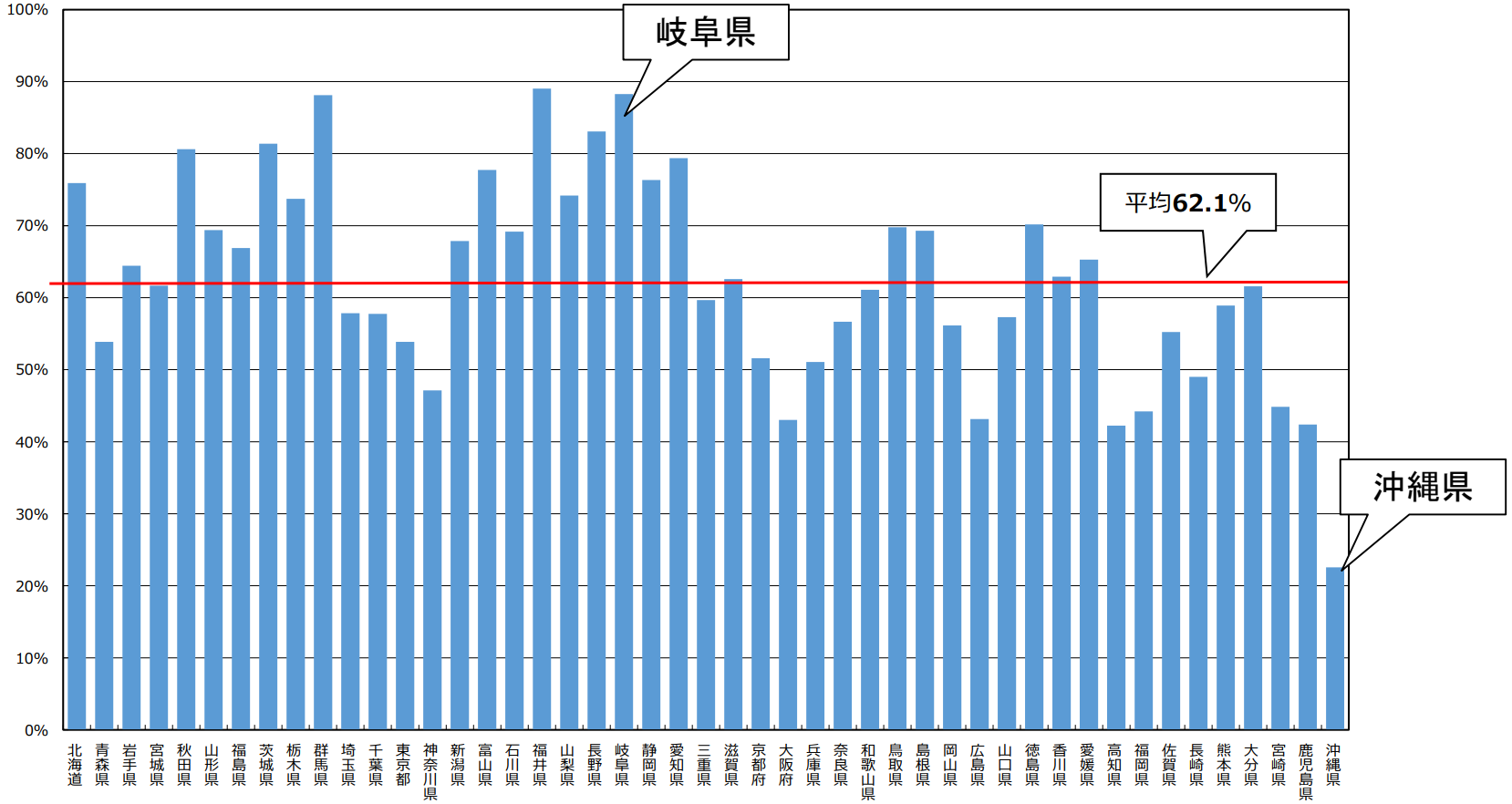
（平成28年度学校教員統計調査より教育人材政策課作成）

文部科学省　令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

小学校で勤務している教員に占める中学校教諭の免許を併有している者の割合

小学校で勤務している教員に占める中学校教諭の免許状を併有している者の割合

Ⅳ－19



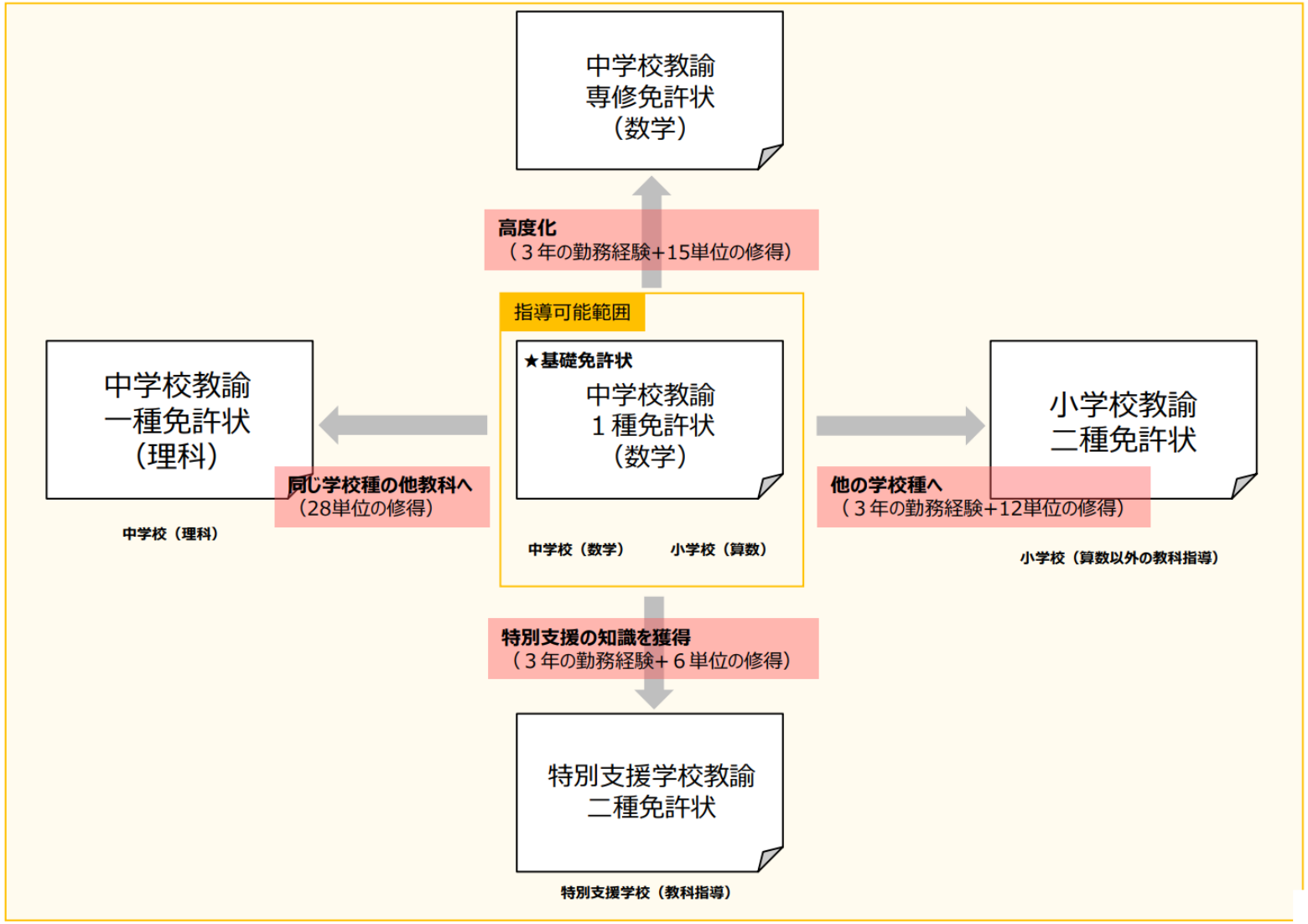
（平成28年度学校教員統計調査より教育人材政策課作成）

文部科学省　令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

令和の日本型学校教育の構築

基礎となる免許状をもとにした新たな免許状の取得

Ⅳ－7



文部科学省　令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

現職教員が隣接校種の免許状取得に必要な要件

②現職教員　現職教員が隣接校種の免許状取得に必要な要件の弾力化（別表８）

在職年数を踏まえて他校種の免許を取得する際は、法律上、現在保有している免許状の在職年数のみ換算することとされているが、例えば中学校免許状を保有する教員が小学校に専科教員として配置勤務している実態も増えているため、取得しようとする免許状の勤務年数も参入することとしてはどうか。（地方分権提案）

取得希望免許状の種類 ／ 免許状取得に必要な要件		小学校教諭2種免許状		中学校教諭2種免許状	
有することが必要な教員免許状		幼稚園教諭普通免許状	中学校教諭普通免許状	小学校教諭普通免許状	高等学校教諭普通免許状
有することが必要な教員免許状を取得した後、**当該学校における教諭等として良好な勤務成績で勤務した最低在職年数**		3年		3年	
必要修得単位数	教科に関する専門的事項に関する科目			10(5)	
	各教科の指導法に関する科目	10(5)	10(5)	2(1)	2(1)
	道徳の理論及び指導法	1(1)			1(1)
	生徒指導の理論及び方法	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	大学が独自に設定する科目				4(2)
	合計	13(7)	12(6)	14(7)	9(5)

取得しようとする学校種での勤務年数も算入できるようにする【教育職員免許法改正】

※普通免許状とは、1種免許状、2種免許状又は専修免許状を指す。黒字は必要修得単位数を表す。
※最低在職年数に加えて、取得を希望する免許状に応じた学校での勤務経験がある場合、必要修得単位数を1年につき3単位減じることができる（必要修得単位数の半数を限度）。赤字は必要修得単位数の半数まで減じた場合の取得単位数。
【例】中学校教諭普通免許状を取得して中学校で教諭として3年勤務、その後に小学校において専科担任として2年勤務した場合、小学校教諭2種免許状取得のために必要な単位数は6単位。

文部科学省　令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

これからの新たな学びの創造

新たな学びを実現するきめ細かな指導（イメージ）

Ⅰ－4

学習指導の充実

《個に応じた指導の充実》

- ✓ 学習履歴（スタディ・ログ）等の教育データを多面的に把握
- ✓ センシング技術（発話量・視線等のデータ収集）で子供の状況を客観的・継続的に把握
- ✓ オンライン学習システム（CBTシステム）等を通じ学習の進捗状況・指導の改善点を把握

➢ ①個々の子供の知識・技能等に関する学習計画の作成、
②データに基づく最適な教材の提供等により、
一人一人の興味・関心や学習進度・学習到達度（つまずきの状況）に応じた指導に生かす
状況に応じ、学年や学校段階を超えた学び・学び直しを含め補充的・発展的な学習指導を実施

《協働的な学びの充実》

➢ 意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習、討論や発表等の学習活動・機会の増加等により、協働的な学びを充実

➢ ICT・遠隔技術を活用した地域社会学習や海外交流学習を充実

《教育的ニーズに応じた指導の充実》

□ 障害のある子供

➢ 個々の障害の特性等に応じ、音声読み上げ・ルビ振り等の機能を持つデジタル教材を活用するなど、個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく指導を充実

□ 不登校・病気療養中の子供

➢ ICT・遠隔技術の活用による自宅や病室等と繋いだ学習を充実

《緊急時の学びの保障》

➢ ICT・遠隔技術を活用した同時双方向型オンライン指導を実施

※画面を通して
大人数の状況把握は困難

生徒指導の充実、保護者との連携強化

➢ 日常所見・健康観察情報・保健室利用情報等の学校生活上のデータ、健康診断情報等を多面的に把握し、丁寧に対応することで、個々の子供が抱える問題を早期発見・解決

※SC・SSW、学校医等と連携

➢ 教育データを活用し、子供の抱える問題について家庭とより緊密な連携を図りつつ丁寧に対応

《取組例》
大阪市・児童生徒ボード

- 教員が児童生徒の状況を多面的に確認
  ⇒ 状況を迅速に把握し、きめ細かく指導
- 学校全体で問題を早期発見、迅速に対応

文部科学省　令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

令和の日本型学校教育の構築

中央教育審議会初等中等教育分科会「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」(答申)のポイント

Ⅰ－9

～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～ 【令和３年１月26日 中央教育審議会】

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」で目指す学びの姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- 「個別最適な学び」が進められるよう，これまで以上に**子供の成長やつまずき，悩みなどの理解に努め，個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援**することや，**子供が自らの学習の状況を把握し，主体的に学習を調整することができるよう促していく**ことが求められる
- その際，ICTの活用により，**学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ，健康診断情報等を利活用**することや，**教師の負担を軽減**することが重要

②協働的な学び

- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう，**探究的な学習や体験活動等を通じ，子供同士で，あるいは多様な他者と協働**しながら，他者を価値ある存在として尊重し，様々な社会的な変化を乗り越え，持続可能な社会の創り手となることができるよう，必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう，**一人一人のよい点や可能性を生かすことで，異なる考え方が組み合わさり，よりよい学びを生み出す**

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

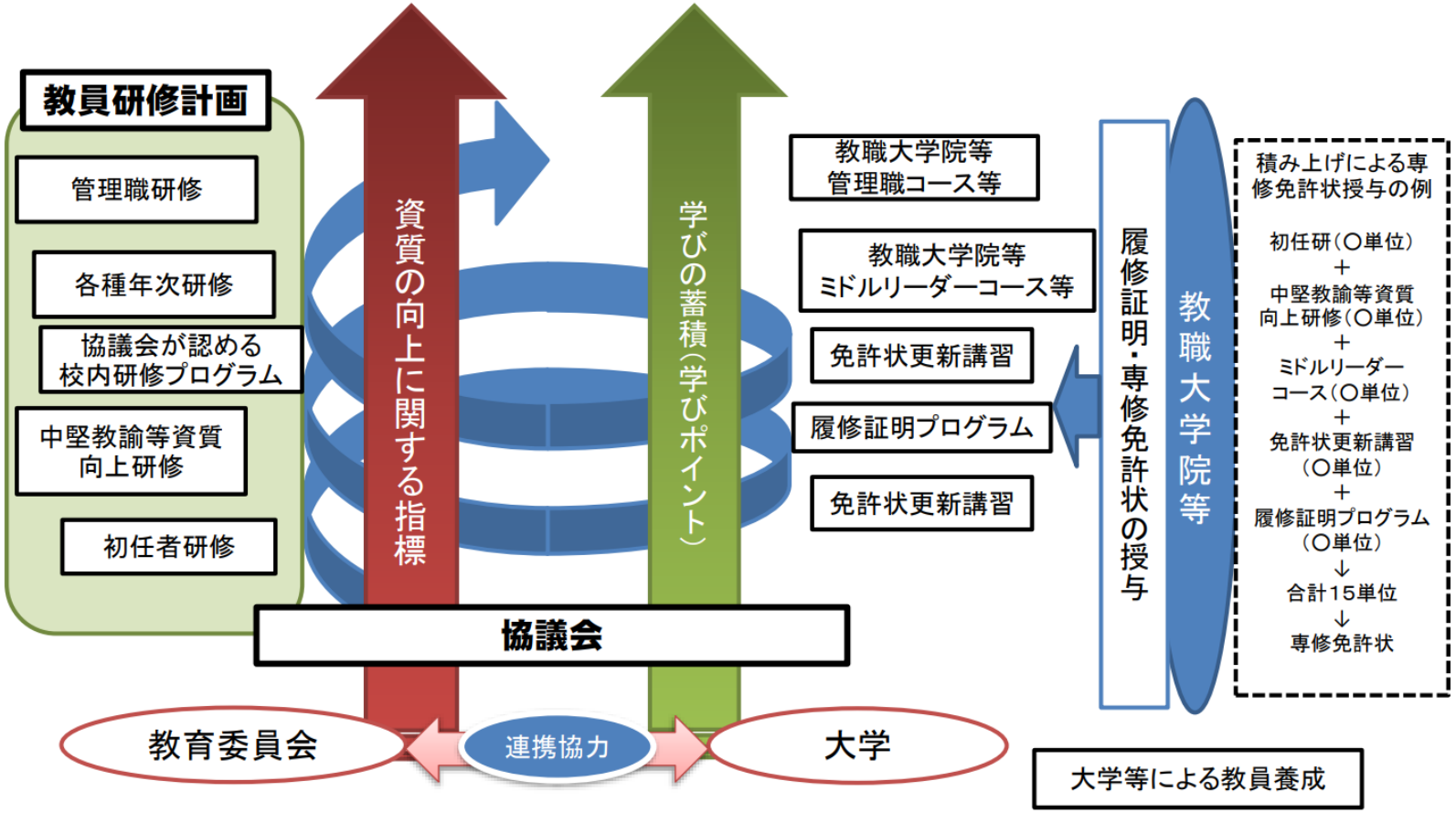
- これまで日本型学校教育が果たしてきた，**①学習機会と学力の保障，②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障，③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的，精神的な健康の保障**を学校教育の本質的な役割として重視し，継承
- 一斉授業か個別学習か，履修主義か修得主義か，デジタルかアナログか，遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった**「二項対立」の陥穽に陥らず**，教育の質の向上のために，発達の段階や学習場面等により，**どちらの良さも適切に組み合わせて活かしていく**

文部科学省 令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

令和の日本型学校教育の構築

学び続ける教員を支えるキャリアシステム（将来的なイメージ）

Ⅲ－21



協議会の協議において、資質の向上に関する指標の策定を行うとともに、指標を踏まえつつ、各種研修、免許状更新講習、履修証明プログラム、教職大学院コースをそれぞれ単位化し、それらの積み上げによって履修証明や専修免許状を授与する取り組みの推進を図り、学び続ける教員の具現化を図る。

※「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（平成27年12月中央教育審議会答申）より（一部加工）

文部科学省　令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について関係資料（1）より

令和4年度　現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

～　自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計　～

◆ 社会的背景

教員には、学校段階間の接続を見通した常に義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持ちつつ指導する力や、教科横断的な視点で学習内容を組み立てる力など、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を教職生涯において身に付けることが、より一層期待されている。

また、教育DX（Digital Transformation）は、教員がオンライン技術を活用して、学びのあり方やカリキュラムを革新し、同時に、業務や組織、プロセス、学校文化の変革など、時代の変化に対応した教育ができる人材が求められている。

◆ 本事業の目的

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々の状況に応じた適切な教育の提供を行うために、教員が自ら課題を持って、主体的に講習に参加し、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を向上させることができるカリキュラムの開発を目指す。

具体的には、受講者のニーズに応じて柔軟に講習内容を組み合わせたり、自律的に学ぶことができるオンライン講習を取り入れたりするなど、教員が主体的に学ぶことができる学習環境を考える。

本事業では、教員の資質能力向上を目指す教育データの利活用と新たな学習指導を研究し、自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる新たな学習環境を開発する。

◆調査研究事業の内容

① 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計

講習の目的は「教えること」ではなく、学習者が「自ら学ぶ」ことを手助けし、学習者に「行動変容」が起こることである。「教えない」講習が主体的な学び手を前提として、よりフレキシブルな学習環境を提供すると共に、本講習の対象者である大人の学習であるアンドラゴジーの原則を踏まえるカリキュラムとする。

② 教育データの利活用と新たな学習指導の開発

GIGA スクール構想により、児童生徒1人1台端末環境の実現が進む中、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していくため、教育データの効果的な利活用を促進することが必要である。

そのために、データサイエンスやこれまでの教育実践の「経験知」の可視化等、教師の経験知と科学的視点のベストミックスした新たな学習指導について考える。

③ 学習環境としての教育リソースの整備

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々の状況に応じた適切な教育の提供を行うためには、教員が自ら課題を持って、主体的に講座に参加する体制の確立が必要である。

そのためにも教育実践に関する調査研究や教育資料をデジタルアーカイブ化することにより、教育リソース（デジタル化された教育資料）を縦横に使いこなし、“新たな学びの空間”を創造するための知識やツールを提供する。

課　題

- ○小中連携コーディネータの養成の養成カリキュラムの開発
- ○ 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力の構造化
- ○ 教員不足へのアクションとしての有用性の検証

現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

◆具体的な取り組み方法

- ・自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる新たな学習環境の設計
- ・教育データの利活用と新たな学習指導の開発
- ・学習環境としての教育リソースの整備

評価検討委員会

自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計

複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力

児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等が増加したりするいわゆる中１ギャップに対応する

小中連携教育コーディネータの養成

創造社会の学びに対応した新しい教員の資質能力

Society5.0時代を生きる子供たちに相応しい、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現

学習科学による
教員の専門性向上の講座設計

教育データの利活用

全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していくため、教育データの効果的な利活用を促進する

教育の方法と技術
（ハイブリット型授業の研究）

発達段階に応じて対面指導と遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド化）ことで、多様な子供たちに対して教育の質を高め、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

個別最適な学びと
カリキュラムデザイン

自律的なオンライン講習

教育データに基づく
最適な教材の提供

教育リソースの整備

教育の学習材・学習プリント等資料の構造化と体系化

学習目標の分析とデザイン
（目標明確化の3原則）

行動目標・評価条件・合格基準

新たな学習指導の在り方

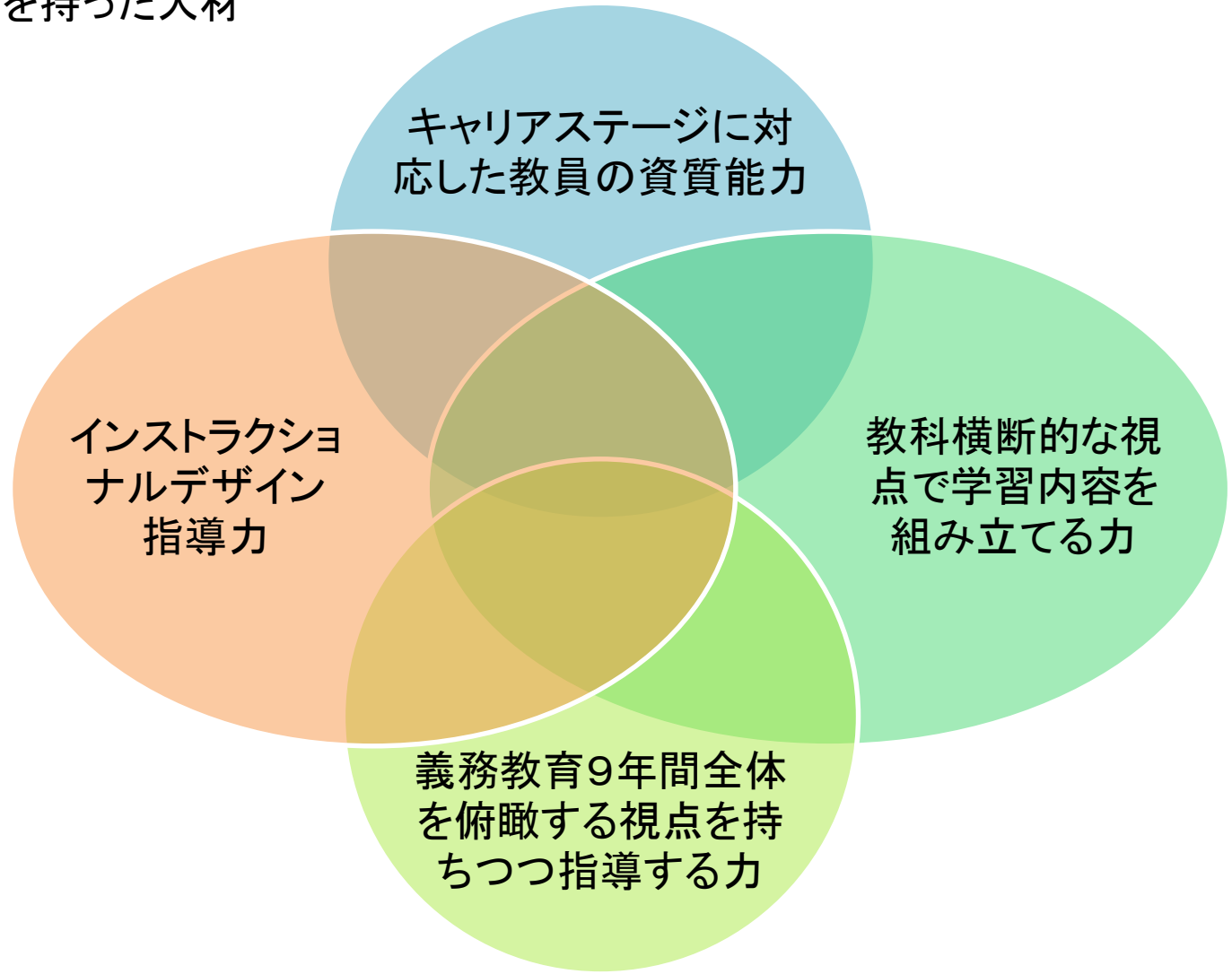
教育の基礎資料の収集と整理

教えないで学べる講座設計

（例）講義形式からの脱却・行動変容をモニタリング・成長する小中連携教育コーディネータの学びに誘う講座

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力

■複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた時代の変化に対応した総合的な指導力を持った人材



キャリアステージに対応した教員の資質能力（岐阜県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

学 習 指 導	授業構想
	授業実践
	評価改善
生徒指導	生徒理解
	生徒指導
	キャリア教育
経営・分掌	学年・学校経営
	連携・協働
	危機管理
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応	
ICTや情報・教育データの利活用	

改訂版

清流の国ぎふ　岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【中学校】

～ぎふの人間像～
高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦し、家庭・地域・職場で豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え行動できる「地域社会人」

～岐阜県が求める教師像～
◎ 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師（学び続ける向上心）
◎ 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師（高い倫理観・使命感）
◎ 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師（確かな専門性）

		スタートライン	【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
			意欲的に授業実践や学級経営に取り組み、教職の基礎を固める。	学校の中核として実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。	活力ある学校運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。	学校管理や他の教員等への指導を行い、広い視野で組織的な運営を行う。
学習指導	授業構想	中学校に関する学習指導要領、評価規準・評価方法等を理解し、それらを踏まえた指導計画を作成することができる。	学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。	小・中学校９年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成し、他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画が作成され、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。
	授業実践		教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。	教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。	授業モデルを示すなど、授業実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題を踏まえ、学力向上に向けた実践を他の教員等に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
	評価改善		評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。	適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。	学校の授業力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。	他の教員等に対して、授業における評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
生徒指導	生徒理解	生徒と共に活動する楽しさや喜びを経験し、生徒理解の重要性について理解している。 教育相談、生徒指導、キャリア教育等に関する基本的な事項や指導方法等について理解している。	進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。	生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。	様々な情報に基づいて生徒一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。	継続的に生徒の行動を見届け、価値付ける指導を行ったり、生徒の捉え方について助言を行ったりすることができる。
	生徒指導		問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。	関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。	関係職員や保護者等と協力して、生徒の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。	生徒に対する指導を組織的・計画的に実践できるように体制を整えるとともに、問題の未然防止の取組を実践することができる。
	キャリア教育		生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。	生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。	社会や職業との関連をより意識して生き方を考えられるように、地域との連携を図りながら指導することができる。	キャリア教育の視点を踏まえた生き方指導のモデルを実践したり、他の教員等が適切に指導できるよう、助言を行ったりすることができる。
経営・分掌	学年・学校経営	教員の職務内容や学校組織等について理解している。 危機管理の重要性や組織マネジメントに関する基本的な事項等について理解している。	担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。	学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。	校務全般に関して理解を深め、組織を生かしながら校務を推進することができる。	学校の教育目標具現に向けて、校内組織間の連絡・調整を行うことができる。
	連携・協働		他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。	組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。	他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら、対応することができる。	広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
	危機管理		生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。	事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。	関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。	学校を取り巻く環境について家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		特別な配慮や支援を必要とする生徒について、合理的配慮の提供や組織的な対応の必要性を理解している。	一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。	多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。	全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。	幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用		ICTを活用した学習指導や校務の推進及び生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成することについての意義や効果を理解している。	授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。	ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。	自らのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。	学校のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
・自分の得意な内容、領域を見付けられる。	・自分が得意な内容、領域を磨いている。 ・他の人がもっているもののよさに気付き、取り入れてみる。	・自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。 ・異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。	・若手や同僚に共感する。 ・自分の知恵や経験を活かす場がある。

教員が成長し続けるために大切な姿

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ 採用ステージ （１年目）	担当校務をしっかり担う！ 基礎ステージ （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ 充実ステージ （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ 発展ステージ （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ 指導ステージ （概ね18年目以降）
ステージ像	○教育活動に関する基礎的・基本的な知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等を踏まえた教育活動を実践することができる。 ○沖縄県の教員としての自覚を持ち、チームとしての学校の一員として、他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、担当する校務に取り組むことができる。	○教育活動に関する知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等に応じた教育活動を実践することができる。 ○チームとしての学校の一員として、他の教職員と連携・協働しながら、担当する校務を担うことができる。	○教育活動に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かした教育活動を実践・推進することができる。 ○経験の浅い教職員に積極的に関わる等、同僚性の向上や連携・協働の充実を図り、連携・協働体制の構築を推進することができる。	○自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた教育活動を効果的に推進することができる。 ○学年や分掌等の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、教育活動をより効果的・効率的に推進することができる。 ○全校的な視点から、チームとしての学校の連携・協働体制を支え、他の教職員を適切に支援・育成することができる。

教職を支える力	**倫理観・使命感・責任感**
	○教育公務員として、子供たちの成長を担う尊い使命を県民から託されていることを自覚し、より高い倫理観と強い使命感、責任感を持って行動することができる。
	教育的愛情・人権意識
	○先生として、日々、子供たちと向き合い、その成長に大きな影響を与える存在として、真の教育的愛情及び高い人権意識を持って子どもたちと関わることができる。
	豊かな人間性・学び続ける力
	○教師として、今を生き、未来を拓く子供たちを導くために、自らの感性を高め、豊かな人間性を養い、高度専門職業人として、学び続けることができる。

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ 採用ステージ （１年目）	担当校務をしっかり担う！ 基礎ステージ （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ 充実ステージ （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ 発展ステージ （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ 指導ステージ （概ね18年目以降）
生徒指導力	児童生徒理解				
	○児童生徒理解の意義を理解し、資料・情報収集の方法や人格・心理の発達特性等の基礎的・基本的な知識・技能等を身に付けている。 ○共感的・受容的態度で児童生徒等と向き合い、適切なコミュニケーションにより信頼関係を築くことができる。 ○必要な資料・情報を収集し、個々の児童生徒等及び児童生徒集団の実態把握に努めることができる。	○適切なコミュニケーションや丁寧な観察、保護者との連携、調査等を活用して、資料・情報を適切に収集し、他の教職員と共有することができる。 ○収集した資料・情報を知識や理論等に照らして分析し、個々の児童生徒等及び学級等の児童生徒集団の実態を把握することができる。	○児童生徒理解に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かして、個々の児童生徒等だけでなく学年等の児童生徒集団についても適切に実態を把握することができる。	○自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた児童生徒理解の組織的・計画的な取組を効果的に推進することができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、児童生徒理解の取組をより効果的・効率的に推進することができる。
	個別指導・集団指導				
	○各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の各時間における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義を理解している。 ○ガイダンスの機能の充実を図る取組や教育相談等を計画的に実施し、児童生徒等の実態等を踏まえた学級経営等を実践することができる。 ○他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、問題行動の未然防止及び早期発見、早期対応に努めることができる。	○各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の各時間の特色を生かした生徒指導、進路指導及びキャリア教育の取組を実践することができる。 ○ガイダンスの機能の充実を図る取組や教育相談等を適切に実施し、児童生徒等の実態等に応じた生徒指導を実践することができる。 ○生徒指導上の課題等について、学校内外の関係者と連携・協働し、組織的な解決を図ることができる。	○生徒指導、進路指導及びキャリア教育に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かした取組を実践・推進することができる。 ○個々の児童生徒等だけでなく学年等の児童生徒集団に対する指導にも積極的に関わり、組織的・計画的な指導を図ることができる。 ○経験の浅い教職員に積極的に関わる等、生徒指導の連携・協働体制の構築を推進することができる。	○自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた生徒指導、進路指導及びキャリア教育の組織的・計画的な取組を効果的に推進することができる。 ○学年や分掌等における生徒指導の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の取組をより効果的・効率的に推進することができる。 ○生徒指導の連携・協働体制を支え、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ **採用ステージ** （１年目）	担当校務をしっかり担う！ **基礎ステージ** （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ **充実ステージ** （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ **発展ステージ** （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ **指導ステージ** （概ね18年目以降）
授業実践力	**指導計画（Plan）**				
	○学習指導要領を踏まえた指導計画を立てることができる。 ○教材研究の意義を理解し、丁寧な教材研究を行うことができる。 ○教材の提示方法や指導形態、評価規準の設定等の学習指導に関する基礎的・基本的な知識・技能等を生かして、児童生徒等の実等態等を踏まえた指導計画を立てることができる。	○学習指導要領や沖縄県のめざす授業像を自らの指導実践と関連付けた指導計画を立てることができる。 ○教材研究を丁寧に行い、学習指導に関する知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等に応じた指導計画を立てることができる。	○教材研究を充実させ、創意工夫を生かして、個に応じた指導の充実を図る適切な指導計画を立てることができる。 ○経験の浅い教員に積極的に関わる等、他の教員と連携・協働して、系統的・体系的な指導計画を立てることができる。	○これまでの教材研究や授業研究の成果等を生かして、個に応じた指導の充実を図り、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた効果的な指導計画を立てることができる。 ○教科や学年等における指導計画の作成において、中心的な役割を果たし、他の教員に指導・助言をすることができる。	○豊かな教材観や経験等を生かして、全校的な視点から、より効果的・効率的な指導計画を立てることができる。 ○指導計画の作成において、校内の連携・協働体制を支え、他の教員に適切な指導・助言をすることができる。
	授業実践（Do）・学習評価（Check）				
	○板書や発声の仕方、机間指導等の授業実践に関する基礎的・基本的な知識・技能等を生かして、指導計画を踏まえた授業を展開することができる。 ○学習規律及び支持的風土の確立、学習環境の整備の重要性を理解し、その実現に努めることができる。	○発問の仕方や学習形態の工夫等の授業実践に関する知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等に応じた授業を展開することができる。 ○学習規律及び支持的風土を確立し、適切な学習環境を整備することができる。	○新たな教材や教具及びICTの活用等の授業実践に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かして、個に応じた指導の充実を図ることができる。	○これまでの授業実践の成果や自らの強み等を生かして、個に応じた指導の充実を図り、効果的な授業を展開することができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、児童生徒等一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす模範的な授業を展開することができる。
	○学習評価の意義を理解し、評価規準や評価方法、目標に準拠した評価等の学習評価に関する基礎的・基本的な知識・技能等を身につけている。 ○他の教員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、児童生徒等の実態等を踏まえた適切な学習評価の実施に努めることができる。	○評価規準や評価方法、評価時期等を児童生徒等の実態等に応じて設定し、適切な学習評価を実施することができる。 ○他の教員と連携・協働して、組織的・計画的な学習評価を実施することができる。	○学習評価に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かして、学習評価の妥当性や信頼性等の向上を図る取組を実践・推進することができる。	○これまでの経験や知識・技能等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた効果的な学習評価の実施を推進することができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、より効果的・効率的な学習評価の実施を推進することができる。
	授業研究（Check）・改善（Action）				
	○学習指導と学習評価の一体化の意義を理解している。 ○他の教員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、日々の授業研究・改善に取り組むことができる。	○学習指導と学習評価の一体化を図り、日々の授業研究・改善に取り組むことができる。 ○自らの授業を公開したり、他の教員の授業を参観する等、他の教員と連携・協働して、授業研究・改善に取り組むことができる。	○研究授業の実施や研修会の参加等の授業研究・改善の取組を充実させることができる。 ○経験の浅い教員に積極的に関わる等、他の教員と連携・協働して、授業研究・改善の体制構築を推進することができる。	○これまでの成果や自らの強み等を生かして、授業研究・改善のさらなる充実に取り組むことができる。 ○授業研究・改善の取組において、中心的役割を果たし、示範授業等を行うことができる。	○授業研究・改善のさらなる充実や新たな課題への対応等に取り組み、理想の授業を追求し続けることができる。 ○豊かな知識・技能や経験等を生かして、他の教員の授業に対して適切な指導・助言をする等、授業研究・改善の風土の醸成に努めることができる。

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ 採用ステージ （１年目）	担当校務をしっかり担う！ 基礎ステージ （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ 充実ステージ （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ 発展ステージ （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ 指導ステージ （概ね18年目以降）
学校運営力	**連携・協働**				
	○沖縄県の教員としての自覚を持ち、チームとしての学校の一員として、他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、担当する校務に取り組むことができる。 ○保護者と適切なコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことができる。	○チームとしての学校の一員として、他の教職員と連携・協働しながら、担当する校務を担うことができる。 ○学校と地域や関係機関等との信頼関係の構築に努めることができる。	○経験の浅い教職員に積極的に関わる等、同僚性の向上や連携・協働の充実を図り、連携・協働体制の構築を推進することができる。 ○学校と保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制の構築を推進することができる。	○学年や分掌等の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる。 ○学校と保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制において中心的役割を果たすことができる。	○全校的な視点から、チームとしての学校の連携・協働体制を支え、他の教職員を適切に支援・育成することができる。 ○全校的な視点から、学校と保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制を支えることができる。
	安全・危機管理				
	○学級活動等における児童生徒等の活動について常に安全を確保し、事故等の未然防止に努めることができる。 ○事故等が発生した場合の緊急対応体制を把握し、発生時には他の教職員と連携・協働体制のもとで、適切に対応することができる。	○安全・危機管理体制における自らの役割を理解し、他の教職員と連携・協働しながら、その役割を担うことができる。	○危険箇所の指摘や事故の未然防止に向けた取組について提案する等、安全・危機管理の充実を図ることができる。	○学年や分掌等の安全・危機管理体制において、中心的役割を果たし、学校の状況や地域の実態等を踏まえた安全・危機管理の徹底を図ることができる。	○全校的な視点から、学校の安全・危機管理体制を支え、効果的な体制整備や安全・危機管理の徹底を図る取組等について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。
	課題解決				
	○他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、課題の発見及び解決に努めることができる。	○担当する校務について、常に改善の視点を持ち、課題の発見及び解決に取り組むことができる。	○課題を示したり、解決に向けた取組を提案する等、校内の課題解決を推進することができる。	○課題解決に向けた効果的な取組を推進し、他の教職員に指導・助言をする等、中心的役割を果たすことができる。	○全校的な視点から、課題解決に向けたより効果的・効率的な取組を支え、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。
	事務処理				
	○計画的に作業に取り組み、正確な処理及び期限を守る等の適切な管理に努めることができる。	○正確な処理及び期限を守る等の適切な管理を行うと共に、タイムマネジメントの視点からより効率的な事務処理に努めることができる。	○他の教職員の事務処理等にも配慮しながら、自らの事務処理を調整する等、事務処理の連携・協働の充実を図ることができる。	○校内の事務処理体制や処理内容等について改善案を提案する等、事務処理の適正化・効率化の取組において中心的役割を果たすことができる。	○全校的な視点から、より適正で効率的な事務処理について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。
	情報活用・管理				
	○必要な情報を適切に収集し、その妥当性や信頼性等を判断して、法令等に従い適正に活用することができる。 ○個人情報の漏えい等の防止を図り、規定等に従った適正な情報管理を行うことができる。	○幅広い情報収集に努め、収集・活用している情報を他の教職員と積極的に共有することができる。 ○個人情報の取扱い等について、他の教職員と情報共有を図り、情報管理の徹底に努めることができる。	○教育活動等の充実に向け、有用な情報を校内で積極的に発信することができる。 ○他の教職員と連携・協働して、情報管理体制の強化を推進することができる。	○学校活性化に向け、他の教職員と連携・協働して、校外への情報発信を推進することができる。 ○学年や分掌等の情報管理体制において、中心的役割を果たし、適正な情報管理について、他の教職員に指導・助言をすることができる。	○全校的な視点から、学校の情報管理体制を支え、効果的な体制整備や情報管理の徹底を図る取組等について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（１）

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 【中学校・資質向上期】

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに求められる資質能力
学 習 指 導	授業構想	(1)学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 (2)小・中学校９年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。
	授業実践	(1)教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 (2)教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。
	評価改善	(1)評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 (2)適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解	(1)進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 (2)生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
	生徒指導	(1)問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 (2)関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。
	キャリア教育	(1)生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 (2)生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経営・分掌	学年・学校経営	(1)担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 (2)学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。
	連携・ 協働	(1)他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 (2)組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。
	危機管理	(1)生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 (2)事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		(1)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 (2)多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 (2)ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（２）

インストラクショナルデザイン指導力

※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
※ インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにするのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに必要な資質・能力
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン 研修成果の評価 ワークショップ	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

小中連携教育コーディネータの資質・能力の構造化

資質・能力カテゴリー		小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
学 習 指 導	授業構想 授業実践 評価改善	①学習指導要領の目標や内容，評価の観点等を踏まえ，ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 ②小・中学校9年間の系統性，生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。 ③教科の指導内容を適切に理解し，ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 ④教科の専門性を踏まえて，生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。 ⑤評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し，次時や次単元の指導を改善することができる。 ⑥適切な授業評価を行い，継続的な授業改善を行うとともに，自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解 生徒指導 キャリア教育	①進んで声をかけ，共に活動をする中で，生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 ②生徒の行動とその背景にある思いを把握し，共感的に理解した上で，個に応じた指導を行うことができる。 ③問題行動等を早期に発見し，学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 ④関係職員と共に生徒の状況を共有し，適切な指導方法を判断して対応することができる。 ⑤生徒一人一人が目標をもち，計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 ⑥生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど，教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経 営 分 掌	学年・学校経営 連携・協働 危機管理	①担当する校務の役割を理解し，責任をもって行うことができる。 ②学校全体を見渡し，課題を改善しながら校務を行うことができる。 ③他の教員等のよさに学び，相談・協力することができるとともに，保護者との連絡を密にし，望ましい関係を築くことができる。 ④組織の一員として，他の教員等と声をかけ合いながら，協力して取り組むことができる。 ⑤生徒の安全や個人情報の重要性を理解し，「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 ⑥事故等の発生時や未然防止について，場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		①一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し，ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 ②多様性を尊重し共に成長する集団づくりや，一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		①授業や校務等にICTを活用でき，生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 ②ICTを効果的に活用した授業実践等を行い，校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため，教育データを適切に活用することができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン 研修成果の評価 ワークショップ	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

新たなキャリアである小中連携教育コーディネータ の養成カリキュラムの開発

目　的

義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより，小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や，その能力の向上を図ること」を目的としている。

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】
本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	小中連携教育コーディネータ養成コース　　（第１期～第３期（100名定員／期））
趣旨・内容	本課程は、「義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより，小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や，その能力の向上を図ること」を目的としている。
対象者	次の（1）～（3）に該当する方とします。 （1）中学校教諭普通免許状所持者で，基礎資格となる免許状を取得した後，当該学校における教諭等として在職年数が3年以上の方注1）。 （（1）に該当する方については，コース修了により小学校2種免許状を申請可能） （2）小学校や中学校教諭免許状所持者でスキルアップを目指す方。 （3）小学校や中学校にお勤めで，小中連携教育に興味がある方。
総時間数	9科目　121時間（履修証明プログラムは60時間以上）
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1.　履修証明プログラム受講申請書 2.　写真　2枚

小中連携教育コーディネータの開設科目

科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
大学独自科目	小中連携教育コーディネータ概論	ハイブリッド型	15	義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける。
各教科の指導法に関する科目（5科目10単位）（所有する全ての中学校教諭免許相当する教科を除く）	初等教科教育法（国語）（書写を含む）	ハイブリッド型	15	学習指導要領　国語科の目標、指導内容・方法を理解する。国語科の持つ特質を踏まえ、言語力の育成を重視しながら、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い模擬授業を行って、目標到達の授業ができる力を身につける。
	初等教科教育法（算数）	ハイブリッド型	15	小学校算数科教育の目標と指導内容を理解する。そして、基本的な学習指導案の形式を理解し、算数科の目標達成のための教材研究の仕方や指導方法を理解する。また、評価についても理解する。算数の授業を仕組む基本的力を身につける。
	初等教科教育法（体育）	ハイブリッド型	15	学習指導要領をもとに、体育の意義、目標、内容について理解し、指導案作成に必要な事項を理解し、作成する。また、作成した指導案をもとに模擬授業を行い、振り返りを行う。
	初等教科教育法（音楽）	ハイブリッド型	15	①表現及び鑑賞の活動を通して音楽の諸要素の味わいを感じ取ることが音楽科学習で最重要事項であることを知的感覚的に理解する。 ②音楽指導の各分野について、指導事項とその系統を理解するとともに、活動を通して確実に力が身に付けられる指導の流れを工夫・創造する。 ③楽曲分析の力を付け、曲のもつよさや味わいを音楽の諸要素の面から明らかにする。
	初等教科教育法（理科）	ハイブリッド型	15	小学校学習指導要領（理科）をもとに，理科授業の理論と方法を学びそれら基礎的事項を理解することができる。
	初等教科教育法（外国語）	ハイブリッド型	15	小学校を中心とした新学習指導要領の理念を理解し、その理念に基づいた指導と評価の実践力を養成する。
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法（1単位）	生徒指導論（進路指導を含む）	ハイブリッド型	8	生徒指導論は、一人一人の児童生徒の望ましい人格の成長・発達を図るための指導や援助に必要な知識と技術の習得を目的とする。
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む．）の理論及び方法（1 単位）	教育相談Ⅱ（カウンセリングを含む）	ハイブリッド型	8	カウンセリング理論や技法を含めて、学校における教育相談の基本的な考え方や態度を習得する。また学校における児童生徒の諸問題について心理的視点からの理解と対応や学校教育相談体制の中での連携の在り方について理解する。

小中連携教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化（１）

科目名	講義内容(案)	小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
小中連携教育コーディネータ概論	義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける。	①授業や校務等にICTを活用でき，生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 ②ICTを効果的に活用した授業実践等を行い，校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため，教育データを適切に活用することができる。 (1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。
初等教科教育法（国語）（書写を含む）	学習指導要領　国語科の目標、指導内容・方法を理解する。国語科の持つ特質を踏まえ、言語力の育成を重視しながら、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い模擬授業を行って、目標到達の授業ができる力を身につける。	①学習指導要領の目標や内容，評価の観点等を踏まえ，ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 ②小・中学校９年間の系統性，生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。 ③教科の指導内容を適切に理解し，ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 ④教科の専門性を踏まえて，生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。 ⑤評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し，次時や次単元の指導を改善することができる。 ⑥適切な授業評価を行い，継続的な授業改善を行うとともに，自己の専門性向上に努めることができる。
初等教科教育法（算数）	小学校算数科教育の目標と指導内容を理解する。そして、基本的な学習指導案の形式を理解し、算数科の目標達成のための教材研究の仕方や指導方法を理解する。また、評価についても理解する。算数の授業を仕組む基本的力を身につける。	
初等教科教育法（体育）	学習指導要領をもとに、体育の意義、目標、内容について理解し、指導案作成に必要な事項を理解し、作成する。また、作成した指導案をもとに模擬授業を行い、振り返りを行う。	
初等教科教育法（音楽）	①表現及び鑑賞の活動を通して音楽の諸要素の味わいを感じ取ることが音楽科学習で最重要事項であることを知的感覚的に理解する。（一部略）	
初等教科教育法（理科）	小学校学習指導要領（理科）をもとに，理科授業の理論と方法を学びそれら基礎的事項を理解することができる。	
初等教科教育法（外国語）	小学校を中心とした新学習指導要領の理念を理解し、その理念に基づいた指導と評価の実践力を養成する。	

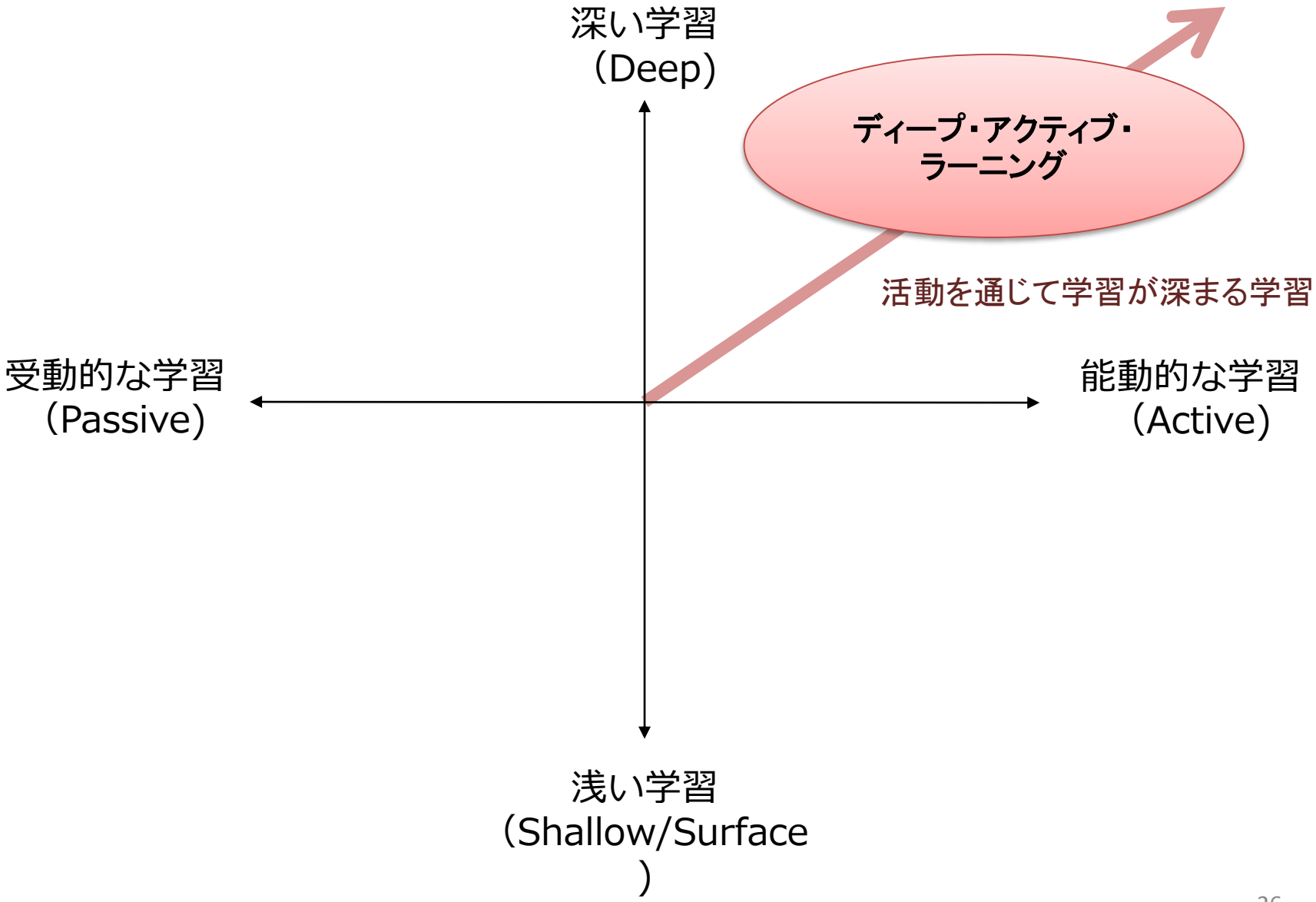
小中連携教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化（２）

科目名	講義内容(案)	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
生徒指導論 （進路指導を含む）	生徒指導論は、一人一人の児童生徒の望ましい人格の成長・発達を図るための指導や援助に必要な知識と技術の習得を目的とする。	①進んで声をかけ，共に活動をする中で，生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 ②生徒の行動とその背景にある思いを把握し，共感的に理解した上で，個に応じた指導を行うことができる。 ③問題行動等を早期に発見し，学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 ④関係職員と共に生徒の状況を共有し，適切な指導方法を判断して対応することができる。 ⑤生徒一人一人が目標をもち，計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 ⑥生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど，教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
教育相談Ⅱ （カウンセリングを含む）	カウンセリング理論や技法を含めて、学校における教育相談の基本的な考え方や態度を習得する。また学校における児童生徒の諸問題について心理的視点からの理解と対応や学校教育相談体制の中での連携の在り方について理解する。	①一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し，ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 ②多様性を尊重し共に成長する集団づくりや，一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。

小中連携教育コーディネータの学習目標の分析

科目名	一般目標	行動目標（行動で目標を示す）	評価条件（評価の条件を示す）	合格基準（合格基準を示す）
小中連携教育コーディネータ概論	義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける。	**第1講【学習到達目標】** ・小中連携教育に関する社会的な課題について説明できる。 ・小学校教員に求められる専門性について具体例を示して説明できる。 ・小学校と中学校の円滑な接続の在り方について説明できる。 **第2講【学習到達目標】** ・小中連携教育コーディネータについて説明できる。 ・小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。 ***第3講【学習到達目標】*** ・ハイブリット型授業について具体的に説明できる。 ・ハイブリット型授業について授業設計ができる。 **第4講【学習到達目標】** ・「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。 ・「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。 **第5講【学習到達目標】** ・キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力を説明できる。 **第6講【学習到達目標】** ・小中連携教育コーディネータに求められる資質能力を説明できる。 **第6講【学習到達目標】** ・BS.ブルームの「教育目標の分類学」を説明できる。 **第7講【学習到達目標】** ・教育DX 時代の社会の変化について説明できる。 ・教育DX 時代における新たな学びについて具体例を示して説明できる。 ・従来の学びと教育DX時代における“新たな学び”との関係について説明できる。 **第8講【学習到達目標】** ・21 世紀に求められる学力について説明できる。 ・資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。 **第9講【学習到達目標】** ・反転授業について具体例を挙げて説明できる。 ・反転授業について具体的に授業設計ができる。 （以下略）	**第1講【課題】** 1．教員の資質向上についてその方策について説明しなさい。 2．小中連携教育に求められる専門性について，具体例を挙げて説明しなさい。 3．それぞれ地域の教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標を説明しなさい。 **第2講【課題】** 1．小中連携教育コーディネータについて説明しなさい。 2．小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明しなさい。 3．ペダゴジー（pedagogy）とアンドラゴジー（andragogy）の違いについて具体例を挙げて説明しなさい。 （以下略）	**第1講　合格基準** 1．教員の資質向上についてその方策について説明しなさい。 2．小中連携教育に求められる専門性について，具体例を挙げて説明しなさい。 3．それぞれ地域の教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標を説明しなさい。 上記の3課題の内2つ以上完成すれば合格 （以下略）

小中連携教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン



資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1：国立教育政策研究所（2015.3）

小中連携教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン

教育目標の分類学（ブルーム・タキソノミー）

ブルームの教育目標分類学
【認知的領域】
（Bloom,B.S.他）

① **知識**	情報や概念を想起する
② **理解**	伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
③ **応用**	情報や概念を特定の具体的な状況で使う
④ **分析**	情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
⑤ **総合**	様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
⑥ **評価**	素材や方法の価値を目的に照らして判断する

改訂版ブルーム分類学（Anderson,L.W.他）

知識次元	認知過程の次元					
	① 記憶	② 理解	③ 応用	④ 分析	⑤ 評価	⑥ 創造
事実的認識						
概念的知識						
遂行的知識						
メタ認知的知識						

梶田叡一（奈良学園大学長）著『教育評価（第2版補訂版）』（有斐閣）、国立教育政策研究所『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理』を元に整理

教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料より

小中連携教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン

学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探すこと
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に関心を持つこと

浅いアプローチ

- コースを知識と関連づけないこと
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行すること
- 新しい考えが示されるときに意味を理解するのに困難を覚えること
- コースか課題のいずれにも価値や意味をほとんど求めないこと
- 目的や戦略を反映させずに勉強すること
- 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること

Entwistle,McCune,&Walker(2010),table5.2(p.109)の一部を翻訳

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動	深いアプローチ	浅いアプローチ
●振り返る ●離れた問題に適用する ●仮説を立てる ●原理と関連づける ●身近な問題に適用する ●説明する ●論じる ●関連づける ●中心となる考えを理解する ●記述する ●言い換える ●文章を理解する ●認める・名前をあげる ●記憶する	↕	↕

Biggs&Tang(2011),Figure2.1(p.29)の一部を翻訳・作成

『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』第１章（溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）執筆）より　195

小中連携教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン(例)

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

(〇〇する力がある) 内容 事実、概念、手続き、メタ認知	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
	再認、再生	解釈、例示、分類 推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織、結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画できる、汎化
	書く、暗唱する 組み合わせる 辞書・ネットで調べる	説明する 他に例える 要約する	道具や方法を選ぶ 実験や実演で試す プレゼンする	他の結果と比較する 基準に照らして考察する 図やグラフを組み合わせる	良否を判断する 優先順位をつける 採点・審査する	解決案を考案する 解決策の実行を管理する 解決システムを設計する
第1講 小中連携教育に関する社会的背景	・小中連携教育に関する社会的な課題について説明できる。	・小学校教員に求められる専門性について具体例を示して説明できる。	・それぞれ地域の教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標を説明しなさい。	・小学校と中学校の円滑な接続の在り方について説明できる。		
第2 講 小中連携教育コーディネータ	・小中連携教育コーディネータについて説明できる。	・小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。		・ペダゴジー（pedagogy）とアンドラゴジー（andragogy）の違いについて 具体例を挙げて説明しなさい。		
第3講 ハイブリッド型授業のデザイン	・ハイブリット型授業について具体的に説明できる。	・ハイブリット型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。 ・遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。				・ハイブリット型授業について授業設計ができる。 ・ハイブリット型授業を具体的に企画しなさい。 ・遠隔協働学習を企画し，実際に実践してみなさい
第4講「教えないで学べる」という新たな学び	・J・B・キャロルの学校学習の時間モデルについて説明しなさい。	・「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。 ・「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。				・「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。 ・「教えないで学べる」研修を実現するための手立てを考えなさい。

新たな教師の学びの姿の実現にためのカリキュラムデザイン

子どもたちの学び(授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び・協働的な学びの充実を通じた、「**主体的・対話的で深い学び**」を実現

主体的

・自律的なオンライン講習のカリキュラムデザイン
・教えないで学べる学習環境の設計

データサイエンスやこれまでの教育実践の 「経験知」 の可視化等、教師の経験知と科学的視点のベストミックスした新たな学習指導について考える。

学習者と講師や学習者間のコミュニケーションの場の設定

養成段階を含めた教職生活を通じた学びにおける、「理論と実践の往還」の実現

対話的

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系）

6つの認知過程次元との関連を捉えることで、「応用する・分析する・評価する・創造する」といった高次の認知・学習スキルを獲得する学習活動や、それを意図した学習目標の設定により深い学びの評価の可視化

深い学び